

第2回農業高校の学びの充実懇話会（報告）

1 日時

令和6年9月4日（水） 午後1時30分～午後3時40分

2 場所

県庁16階教育委員会室

3 出席委員

大久津委員，都外川委員，東園委員，野村委員，上村委員，谷口委員，木場委員，園山委員，中山委員，永吉委員，増永委員，米森委員

4 議事の主な内容

(1) 委員紹介

(2) 意見交換

第1回農業高校の学びの充実懇話会の報告，県内農業高校の学びの現状，県外の事例等について説明後，意見交換

5 主な意見の内容

- 農業高校の教育内容を充実させるために，学校の学びをコーディネートする人を配置することが必要ではないか。そうすることで，地域とのコミュニケーションや研修，視察等も充実し，継続性が生まれるのではないか。そのようなシステムを構築できればよいと考える。
- 学校をコーディネートする人材として，外部人材なのか，教員なのか県外の事例を鑑みながら検討することが必要である。教員がコーディネートするのであれば，DXを農業教育にどう生かしていくかなどを，各学校から担当者を集めて考えることで，教員に負担をかけることなく農業高校の教育内容を充実できるのではないか。
- 県内の農業高校で学ぶ教科が同じであれば，オンラインにより1人の先生が発信することで，学びが共有され，先生方の業務が省力化されるのではないか。
- 今行っている各学校の取組や今後，学びの充実に向けた新しい方法を試した場合は，アンケートの実施など，必ずその効果を検証する必要がある。そこから，次の一手が見いだせる。

- 県内農業高校の素晴らしい取組を初めて知った。農業に携わっている中で、これまで農業高校の教育内容を知る機会がほとんどなかった。工業高校などは、夏休みのものづくり教室などのイベント情報を発信しており、小学生が参加し、興味を持つことで、子どもたちは、既に将来の進路選択を始めていると言える。農業高校も現在実施している昆虫標本の取組等を小学校等にも発信することで、小学生が早いうちから農業の面白さを知る機会を得るのではないか。
- 各高校、県教委も学校の特徴など様々な情報を発信しているが、そもそも食や農業に興味がない子には情報は届かない。情報を受け取るためには、子どもたちの食や農業に対する興味関心が育まれていることが必要。そのような子どもたちを育てるためには、学校だけではなく、県全体で取り組む必要があると考える。
- 各学校でホームページやInstagramを通じて、情報発信をしているが、本県の農業高校が取り組んでいる事例を掲載する共通のホームページをつかって、各学校で特徴のある実習内容等も掲載すればよいのではないか。そうすることで、情報発信だけでなく、各学校間の教育内容が共有でき、各農業高校の学びの充実につながると考える。
- 高校や農業大学校のSNSなどデジタルを活用したPRについては、堅苦しいものではなく、生徒や学生たちの生き生きとした様子が分かるものが重要だと考える。
- 県外の農業高校で充足率が高い学校があるのは理解した。他県が農業高校の数が少ないのか、本県の農業高校の数が多いいのか、生徒数等の関係はどうか等を検証すべきではないか。
- 専門高校には学区がないことから、農業高校がない地区に、もっと農業高校の良さや寮があることなどの情報を発信すべきではないか。例えば、始良、加治木地区には農業高校がないため、寮のある学校に入学して、農業を学ぼうと考える生徒がいるのではないか。
- 農業高校を寮のある学校に集約するなどにも必要ではないか。教育内容をより充実させることができるのではないか。